


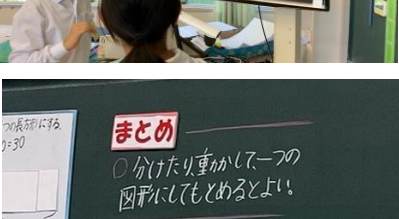
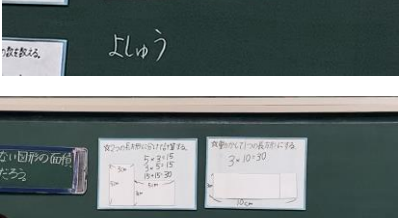
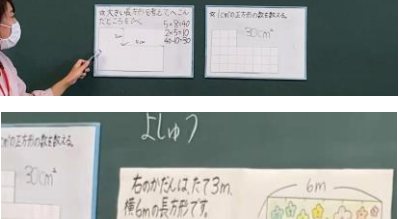


本時の授業反省 「第4学年（6／10）」＜思考＞

<p>予習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領総則における「情報モラル」、「情報活用能力」の整理を行い、系統的な指導を目指す必要がある。 ○ 子どもの思考過程をノートに記述できるような指導を行う必要がある（C B Tの導入につなげていくためにも）。 ○ ひとり学びシートを発達の段階に合わせ、低・中・高で分けて作成する必要がある。 ○ 予習で何を行うのか？（前時間の復習、教科書の問題、基本的な事項の確認、例題、理解できたこと、できなかったこと、どこで何につまずいたか、 ○ 予習状況の確認が必要。答え合わせ、演習、基本用語、定義の確認、最低限の共通理解、理解の度合いに応じた展開、授業が復習になる予習等。 		
	<p>主な学習活動と検証事項</p>	<p>学習活動の様子</p>	<p>課題</p>
<p>展開20分 終末10分</p>	<p>1 自分の考えを発表する様子を撮影する。 【手立て⑤】ロイロノートを使って自分の説明を撮影し、既習事項を踏まえて説明できているか確認できるようにする。</p> <p>2 テレビ画面で予習してきたことを説明する。 【手立て⑥】予習してきたノートをロイロノートで示しながら説明し、質疑応答を行うことで、全員で課題解決ができるようにする。</p> <p>3 テレビ画面で、映し出されたノートを見ながら、発表を聞く。 【手立て⑦】学び合いの想定シートを基に「とも学び」をつないでいく。</p> <p>4 複合図形の面積の求め方をまとめる。 子どもの言葉を使ってまとめることができるように、考えをそれぞれ短くまとめさせる。 【まとめ】長方形や正方形に分けたり、へこんでいる部分をひいたりして求めればよい。</p>	  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どものつぶやきと、挙手による発言の在り方を整理することで、個の発言を生かすことができるようにする。 ○ 自分の画像を録画したら、観点（既習事項）に基づいて、説明ができていのかどうか、他人が見ることができるようにする。 ○ 予習でやっていたことが、展開で生かされることが大切である。 ○ 子どもと子どもが互いの考えや仕方を比較しながら話を聞き、「同じで」とか「似ていて」、「違って」、「しかも、さらに」などの発言で考えがつながっていくと良い。 ○ 一人ずつただ発表するだけでなく、発表の順番や意見をまとめて発表するなどの工夫が必要。 ○ 子どもが「予習できてよかったな。」「頑張ってたよかったな。」と思えるような声掛けをしていく必要がある。 ○ ロイロノートを使いこなすために教師の研修が必要である。
<p>習熟10分 導入5分</p>	<p>5 やってみたいな④の問題に取り組む。 展開で出た4つの考えのどれを使うか、図を使って考えさせることで、1つの大きな図形にし、6×9で求められることに気付かせる。また、1辺が3cmの正方形6個分として考えられることにも気付かせる。</p> <p>6 次時の課題をつかむ。 7 計算の仕方を考える。 8 次時のめあてを立てる。</p>	  	<ul style="list-style-type: none"> ○ （図形領域）図の分離や合成において、思考を深めるために、教師や子どもが考え方を説明する際には、ICT（パワーポイント）の活用を推進する必要がある。 ○ ICT機器は文房具なので、引き出しに収納するなど、使用しない場面での指導の工夫が必要である。 ○ まとめ言葉は、子どもの言葉によく耳を傾けて行いたい（四角形の面積は、たすだけではなく、大きな四角形から引くことでも求められることから）。 ○ 習熟で使った問題を残しておくことで、新しいロイロノートの使い方にもつなげていく。 ○ AIラーニングを導入していく（ナビマというAIラーニングアプリがある）。 ○ 学習への動機付けを図るために、教材や目的に応じた自作動画を作成したり、NHKフォースクール等の動画を活用する必要がある。 ○ 導入において、次時における学習へのイメージのたたせ方を工夫する必要がある。 ○ 子どもの主体性を喚起させるために、エラーモデルや、正方形を一つずつ数えるなどの動画を導入に視聴させる必要がある。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームズ、Googleでも研究公開はできる。300人規模ならズームで双方向。500人なら一方向のズームを活用することで可能である。 ○ 「情報技術に関する技能」より、キーボードを活用することにも注目し、系統的に指導していく必要がある。 ○ 論理的思考力をプログラミング学習によって身に付けさせるために、論理的思考力の指導方法の系統性を明らかにするとともに、中学校への移行についても見通しをもった指導を行う必要がある。 ○ 各学年で指導過程を少しずつすることで、教師がわたりやすくと良い。 		